

## ペリー上陸記念碑の引き倒しと復元

喜田邦彦



### はじめに

2018年7月27日未明、韓国の反米団体は、仁川市にあるマッカーサー元帥の銅像に放火した。垂れ幕には「在韓米軍の偶像撤去」「米軍を韓国から追放せよ」と書かれていた。韓国の左派(北との融和・統一)はこの銅像の撤

去運動を盧武鉉政権(2003~08年)時から始めていた。朝鮮戦争の際、「北の侵略から守ってくれた恩人」として親米のシンボル・マッカーサー将軍も、韓国左派にかかれれば「南北分断の元凶」になる。文在寅大統領の反米・親中・親北政策から見て、この銅像がいつまでもつかわからない……。

こうした動きは、民主政治の中で正統派からはじき出された個人がネットによって付和雷同に走り、多数派や強い権力への反発・うっぶん晴らしとして、歴史的銅像の引き倒しに走ったと、社会学者は分析する。だが同様の事態は、かつての日本にも見られ、「民族性の違い」として笑い飛ばすことはできない。日本で引き倒されたのは、横須賀市久里浜の「ペリー上陸記念碑」で、現在の記念碑はそれを復元した1・5世代ということになるのか。

### 引き倒された記念碑



記念碑の建立除幕は、ペリー来航から37年後、現在の地で日米艦隊が花を添えて盛大に行われた。主催は「米友協会」という日米親善の協会。発起人は金子堅太郎。会員は明治初期に米国留学したエリート官僚・政治家と、著名な在日米国人だった。

ところが昭和に入ると、日米関係の悪化に伴って記念碑は反米のシンボルになった。16年12月、日本は米国に宣戦布告。戦局が悪化した19年7月、横須賀に翼賛壮年団(主体は在郷軍人)が発足し、廃棄気運が一気に高まった。国民の中には、鬼畜米英の碑など糞くらえとばかり、ペンキを塗りつけるわ、石を投げつけるわ、文字を削り取るわ……、この記念碑もひどい目に遭った。

挙句の果て 19 年秋、横須賀翼賛会壮年団が記念碑の破壊を叫び始めた。開戦記念日にあたる 12 月 8 日を期して粉碎し、靖国神社の参道に撒いて参拝者に踏んでもらおうと計画した。そして横須賀鎮守府長官を尋ね、「記念碑は米 B29 による帝都爆撃のチェックポイントになっている」と訴え、破壊への協力を要請した。

しかし大戦の最中であり、「そのようなことに係わりあう暇はない」と一蹴された。それでも迫られたので鎮守府長官は、「記念碑に罪はなく、倒すとは国民としてあまりに大人気ない、そんなに憎いのなら碑に喪章でも着けたらどうだ」と、相手にしなかった。

そこで翼賛壮年団員らは、神奈川県庁に知事を尋ねて破壊の許可を求めた。上陸記念碑は昭和 10 年以降、米友協会から県庁内の「伯理記念碑保存会」が管理を引き継いでおり、藤原孝夫知事は「伯理記念碑保存会」の会長だった。一方で知事は、神奈川県連合翼賛壮年団長を兼ねていた。当時の知事は公選でなく官選だったためである。

板挟みになった知事は「十分検討する」と即答を避けた。記念碑の建立には宮内省から下賜金が出ており、碑の破壊には宮内省の了承も必要だった。

19 年 12 月 6 日、横須賀翼賛壮年団は記念碑の破壊を声明し、「天誅」と大書した柱を記念碑の側に建てた。さらに、徳富蘇峰と連絡を取り、碑の破壊後に氏の筆による「護国精神振起之碑」の建立を計画した。

そこで藤原知事は、県の翼賛壮年団幹部と徳富蘇峰らから意見を聞いた。それまでの知事は、破壊を主張する元軍人や翼賛壮年団員から、短刀で脅かされていた。しかし 2 月 4 日、知事は記念碑の破壊・撤去を決断し、12 月 8 日の執行を指示。宮内庁には、「親米思想の異物」と説明し、了解を得ていた。

当日、藤原知事、東京湾要塞司令官らが見守る中、撤去作業を始めた。計画は、神奈川県横須賀土木出張所長・長谷川正勝氏、作業は横須賀鎮守府庁舎などを建設した馬淵組が担当し、地区の翼賛会理事でもある副社長が指揮した。

破壊の段になり、台座と碑に大量の火薬を準備した。ところが立ち合いの工学博士が、爆破すればその破片で周辺の民家・商店に多大の被害が及ぶと具申した。大戦末期で物不足が著しく、民家のガラス破損のすべてを補償することはできない。

そこで、碑そのものの爆破を断念し、碑と台座を分離するため、ホゾの部分に少量の火薬を仕掛け、台座部分を壊すことになった。それでも破片が飛び散ることから、台座部全周に砂を盛り、その上に米俵、ムシロなどを敷き詰め、衝撃を和らげる処置をとることにした。そのため、当日の作業は延期に追い込まれた。

4 日後に再開。少量の火薬で台座との接着を解かれた記念碑は、自重で台座に鎮座したまま。5 匁余・重さ 10 ㍊の碑を下すため、今度は碑に大綱をかけ、翼賛壮年団員ら 15~16 人の人力で引き倒した。「集まった群衆から万歳の歓声上がり、調子に乗った翼賛壮年団員らは、踏みついたりツバを吐きかけたり、大騒ぎだった」と長谷川氏は回顧している。

次は、この碑を台座から地上に降ろす作業。丸太の三脚を立て、滑車を付け、ウインチで

そろそろ下す原始的方法をとった。なぜこれほどまでに碑を慎重に扱ったのか。戦争末期で建築資材が不足しており、引き倒した碑の流用を考えていた。その大きさ、厚さから、使い道として小河川の橋げた再利用できると見積もられたのである。



この作業後、計画では徳富蘇峰の筆による「護国精神振起之碑」を立てる予定だったが、作成されてなかった。そこでとりあえず、高さ3尺の木製「護国精神振起之碑」を建てるにとどまった。

ところがこれで、「一件落着」とはならなかった。記念碑が倒された直後、「海軍の街」横須賀が米軍機の超低空飛行や空襲に見舞われた。

さっそく市民の間に「記念碑が倒されたことを知った米軍が報復に出た」との噂が広まったのである。そのため、記念碑を再利用する計画や、碎石機で粉々にする計画は沙汰済みとなり、結局、記念碑も台座も放置されたまま、8月15日の終戦を迎えた。

### ドタバタと記念碑復元

終戦から5日後の8月20日、相模湾は横浜に進駐する米国軍艦で真っ黒になった。ところが米軍は計画を変更し館山・富津・横須賀・横浜に直接上陸することにした。28日、横須賀に上陸したニミッツ提督は、倒されたペリー上陸記念碑を確認していた。更に、数人の米国人が現場を確認し、日本語のうまい米国人が、子どもたちに「これを倒すときにどうやって倒しましたか？ どういう人がやりましたか？」などと聞き取りしていた。

これを知った横須賀市民の間で「上陸した米軍は浦賀水道から久里浜を見てペリー記念



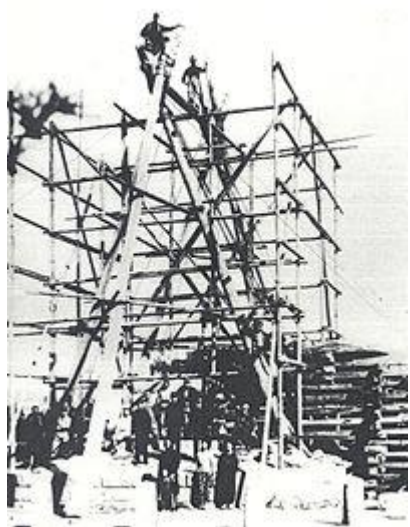
碑がないと知り、激怒している。あれを倒した者は縛り首にされる」との噂が広がった。

こうした情勢で、記念碑の撤去に携わった関係者や久里浜の協力者は怯えた。しばらくして浦賀警察署は、碑の撤去を請け負った馬淵組の関係者を呼び出した。恐る恐る警察署に向かった関係者は、撤去責任の追及でなく、碑の再建の可能性を聞かれたので安堵した。

これに先立ち米軍のMPと通訳は、進駐軍の上陸地と接收箇所の確認、反米活動分子の摘発に関し、神奈川県警察の警備課長や藤原県知事を尋問していた。MPによる反米活動者の摘発には、久里浜の上陸記念碑の破壊も含まれていた。審問を受けた知事は「全ての責任は自分にある。横須賀の翼賛壮年団は自分の命により労力を提供した。処分は受ける」と答えていた。しかし横須賀の人々は、「馬淵組が警察にしょっ引かれた」「米軍の報復が始まる」と見て大騒ぎになったとされる。

こうした情勢で8月30日、東久邇宮総理が「一億総懺悔」を発表したため、「戦争責任」「軍国主義否定」が国民に大混乱をもたらした。戦争の意義や価値観が逆転する中で、神奈川県知事は急遽、記念碑の復旧を決断。そこで、神奈川県庶務課長・元衆議院議員の佐藤一郎氏が、碑の破壊を指揮した長谷川氏と馬淵建設に電話して、「金はいくら使ってもいい。とにかく米軍主力の進駐までに建て直してくれ」と指示した。当時の月給は60～100円だったが、記録では2万円が支払われている。

記念碑を倒したのは無駄骨だったが、丁寧に倒したのが幸いし、復旧は可能だと判断された。ミズーリ号での降伏調印式が9月2日に迫っており、佐藤庶務課長は「記念碑保存会長の知事に責任が及ぶ」と心配したものの、県庁の連中は知事の変心を「碑を破壊した責任の反省、総懺悔の実践」と噂していた。



**記念碑の復元**は、まず、ペンキまみれ泥まみれでひっくり返った碑をきれいにすること。次は、その碑を台座に据える作業。周囲に足場を組み、電柱を4本立て、倒した時と逆順にウインチで引き上げた。最後は、碑を土台に据える接着である。約30センチばかりのホゾの隙間に硫黄を流し込んで固めた。立て直した直後の写真を見ると、土台の最上部が新しいコンクリートで固められているのがわかる。

**再建されたペリー上陸記念碑**は、20年11月に除幕式が行なわれ、藤原知事が祝辞を述べたが、倒した時と違い厳粛に行われ、米国側の出席もなかった。この除幕には、これから始まる米軍の占領政策に対する日本の恭順とい

う意味があったと思われる。

米国側がこの碑の式典に参加したのは、22年7月14日。公選による初代の内山県知事が米海軍横須賀基地司令を招き、復元した記念碑前で「上陸95周年記念式典」を挙行了た。

### おわりに

ペリー上陸記念碑の受難は、今日から見ると滑稽に見え、進駐軍に対する恐怖を伺わせる。だが、当時の横須賀市民は生活不安で必死だった。8月16日に金融機関への取り付け騒ぎが始まり、17日には重砲兵部隊から逃亡者が多発し、20～28日にかけて米軍戦闘機による低空飛行も行われていた。米軍上陸に対する日本人抵抗への警告・威嚇である。26日に連合軍進駐に関する通知が市長名で町内会長に届けられ、28日に米軍が追浜に上陸。9月末には、米兵によるタバコ・ビールの略奪事件が多発したと『新 横須賀市史』は記している。価値観が大きく転換する中で、当時の関係者の苦勞がしのばれる記念碑の復元だった。

その後、「久里浜ペリー祭り」が始まり、28年にペリー来航100周年が盛大に祝われ、29年に記念碑周囲が公園化された。62年にペリー記念館がオープンし、再び日米友好のシンボルとしての役割を果たしている。平成19年3月、ペリー上陸記念碑は横須賀市が指定する重要有形文化財になった。

2021/08/29 記